

パブリック・コメント募集結果

1

	頁	項 目	ご意見・ご提案の内容（要旨）	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修 正 前	修 正 後
1	31 32	少人数指導により、基礎学力の 確実な定着と学ぶ意欲を育む授 業づくり 【学級編成の弾力化の拡大と教 員の配置の拡充】	「少人数学級編成のあり方について研究に取り組みます。」 とありますが、石巻市の教育ビジョンとしては、研究に取り 組む段階を超え、少人数学級編成に取り組むべきだと思いま す。しかも、30人学級編成の有効性が一般的に認識されて いることを考えれば、30人学級編成を目指していくべきだ と思います。	現在、小・中学校1クラスの人数の最大限が40人。県の 学級弾力化事業で小学校1、2年生、中学校1年生（平成 20年度より）で最大限が35人となっております。その他 の学年については、教科の少人数指導で対応しています。 「研究」の内容としては、次のとおりであり、今後、教育 ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。 1学級の編成人数がどのくらいが適当なものか。学級 集団、授業集団としての適正人数はどれくらいなのか、 について総合的に研究する必要があります。30人学級 ということは、1学年31人のような最低人数の場合、 2学級となって1学級が15人と16人となります。は たして、この人数が学級としての適正規模かどうか、研 究の余地があります。 の結果、適正規模の学級を考えた上で、その学級に 配置する教員をどのような人材で確保するのか、その際 に市独自の予算のもと少人数学級編成を行った場合、財 政的にどの程度の新たな負担が生じるのかといった試 算を行う必要があります。	修正なし	
2	70 71	新たな市立高等学校の将来構想 の策定	「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」の見 直しを県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可 能性や廃校など多面的に検討し、あらためて市立高校の将来 構想として策定します。」とありますが、文章として不十分 で、「石巻市教育ビジョンの策定に関する提言」の範囲を超え るものと思います。 特に「廃校」については市立高校将来構想の具現化と自己 矛盾となり、また、「市立高等学校がなくなることに對する 同窓生等の痛みを考慮した感情部分の議論との整合性を図 る必要があります。」との部分が無視されてしまいます。	「提言」は、将来の市立高校の在り方について、本市にお ける高校教育を取り巻く環境を考慮し、将来を展望した議論 を経て「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針を 見直し、多面的に検討すべき」と提案されたものであります。 つまり、教育委員会では、「提言」の趣旨を十分に尊重し たところであります。 また、少子化等による高校再編は全国的な課題となってお り、学級減や統廃合（合併・移管・統合・廃校）による再編 が進められていることから、「提言」にあるとおり、「廃校」 も選択肢の一つとして掲げたものであります。 以上のとおりですが、当該箇所の一部においては、ご指摘 のような誤解を招く記述となっておりますことから、右記の とおり一部を修正します。	【これからの取組み】 新たな市立高校将来構 想の策定 教育委員会の取組み 市民各界、各層の参加の もとで、「石巻市立高等学校再 編に向けた取組みの基本方 針」の見直しを県立高校への 移管、石巻専修大学附属高校 の設置の可能性や廃校など 多面的に検討し、あらためて 市立高校の将来構想として 策定します。	【これからの取組み】 新たな市立高校将来構 想の策定 教育委員会の取組み 市民各界、各層の参加の もとで、「石巻市立高等学校再 編に向けた取組みの基本方 針」を生徒数の推移を考慮し て再度精査し、県立高校への 移管、石巻専修大学附属高校 の設置の可能性や廃校など も多面的に検討し、あらため て市立高校の将来構想とし て策定します。

					<p>【上記修正に伴う他の部分の修正】</p> <p>18頁 5行目 また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>19頁 17行目 そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>	<p>また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>
3			「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」に示された、市立高校の新設こそ将来構想の具現化において同窓生や市民が大きな期待を寄せるものだと思います。	市立高校を取り巻く環境は、基本方針を打ち出した時点と比べて大きく変化していることから、市立高校の将来構想の具現化に関して、平成20年度から市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し、基本方針の見直しも含めて多面的に検討することとしております。	修正なし	
4	3	教育ビジョンの構成と計画期間	教育ビジョン実施計画の前期と後期について具体的内容が明確でなく、特に市立高校の将来構想の具現化に関連して具体的な内容を示してほしい。	<p>教育施策の数値目標や事業計画などの具体的な内容は、教育ビジョン実施計画に掲げることになります。そのうち、平成20年度から平成23年度までの取り組みを前期実施計画とし、平成20年9月の策定をめざしています。</p> <p>なお、市立高校の将来構想の具現化に関しては、前記のとおりです。</p>	修正なし	

	頁	項目	ご意見・ご提案の内容(要旨)	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修正前	修正後
1	70 71	新たな市立高等学校の将来構想の策定	誰でも少子化になっていることは分かっており、新聞でも小学校・中学校の生徒数が減り続けている現状と、そんな中での市立高校の問題。平成15年度から取り上げてきているのに、まだ具体化していない。 長い目で見ると良いが、今の現状で出来ること、また時代のニーズに合わせて答えを出してほしいと思います。	市立高校を取り巻く環境は、平成15年策定時と比べて大きく変化しており、時代の変化に対応した高校教育を推進するため、平成20年度から市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し検討することとしております。	修正なし	
2			新たな市立高等学校将来構想の策定について、「市民各界、各層の参加のもと」とは、どういうことか、また、どんな方々を選ばれるのか。	市民全体の視点で、地域の高校教育の在り方・方向性等について検討することとしております。 なお、検討委員については有識者や市立高校関係者、各地区のまちづくり委員、公募の市民委員等と考えており、現在検討中であります。	修正なし	
3		「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」の見直しにおいて、「県立高校への移管」はあり得るのか、また、「石巻専修大学附属高校の設置」、「廃校」とあるが、「新設」はあり得ないのか。「2校廃校1校新設」ではダメなのか。 石巻らしき魅力のある学校をつくってほしいと願います。	時代の流れ、社会の変化に対応しながら、次代を担う子ども達を育てていくための教育環境の整備を進めていかなければなりません。あらゆる方向性を多面的に検討することとしております。 以上のとおりですが、当該箇所の一部においては、ご指摘のような誤解を招く記述となっておりますことから、右記のとおり一部を修正します。	【これからの取り組み】 新たな市立高校将来構想の策定 <u>教育委員会の取り組み</u> 市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」の見直しを県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校など多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。 【上記修正に伴う他の部分の修正】 18頁 5行目 また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6	【これからの取り組み】 新たな市立高校将来構想の策定 <u>教育委員会の取り組み</u> 市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取組みの基本方針」を生徒数の推移を考慮して再度精査し、県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校なども多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。 また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6	

					<p>月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>19頁 17行目</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>	<p>月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>
--	--	--	--	--	---	---

	頁	項 目	ご意見・ご提案の内容（要旨）	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修正前	修正後
1	-	教育環境整備、教育予算	<p>ありきたりですが、子ども達には、未来と無限の可能性があると信じます。必要なのは、その可能性を引き出す環境づくりと先達である親や地域の支援であると思います。</p> <p>私は、この地に生まれた子ども達が世界に飛び出し、活躍をし、そして帰る地であることを野望とすべきであると考えます。</p> <p>教育費は、見返りのない投資であるかもしれません。しかし、大きく成長し活躍する夢を描く至福に優るものはないと思います。</p> <p>親であれば、誰しも次世代がより良い人生と社会であってほしいと願うのは当然のことであると思います。そのためにも、最大限の教育環境整備と親を含めた先達である我々の強い教育再生意志力が重要であると思います。</p> <p>日本は、歴史や文化も外からの圧力や変化に対応する形で精錬し続け、磨き込んできた。グローバルな世界の中で、10年、20年更には50年も視野に入れた体系の中で、今、石巻はどんなアイデンティティを創り上げるべきかを考えたいものです。</p> <p>私は、人間こそが源、未来志向で鑑み、将来の大人達への教育投資を拡大されるよう切望し、提案します。</p>	<p>同感です。ご意見のとおり、子ども達は将来を担う大切な財産であり、教育ビジョンでは、学校教育の本質を、この「人づくり」であると捉えています。</p> <p>教育委員会では、教育ビジョンに基づき、子ども達に必要な教育環境整備や教育予算の確保に努めてまいりますので、保護者や地域の皆様には、子ども達と学校に一層のご支援をいただき、ともにより良い学校教育の実現を目指して参りたいと考えております。</p>	修正なし	

	頁	項目	ご意見・ご提案の内容(要旨)	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修正前	修正後
1	70 71	新たな市立高等学校の将来構想の策定	<p>新たな将来構想の市立高校将来構想は、次の、の3つの選択肢について検討し、策定することになると思うので、その内容について意見を述べたいと思います。</p> <p>「県立高校に移管を検討する」について</p> <p>「市女高、女子商共に敷地面積が狭く、県立の設置基準に達しない。男女共学も出来ない。だから県立移管はできない。」これは今まで市教育委員会自身が高校の教職員(私は以前市女高の教員だった時にそう説明を受けている)や同窓会の人々に説明してきたことである。自分たちが出来ないことを、あたかも可能であるかのように掲げ、選択肢の中に入れて検討させるのはゴマカシである。</p> <p>さらに、県教教育委員会では県立高校の将来構想として高校の統廃合を進めている。石巻地区でも飯野川高校の廃校が決まったばかりである。統廃合を進めている県が石巻市立高校を県立高校に移管しようとしても不可能である。</p> <p>以上の点から考えて、県立移管の可能性を検討するとは言いが、これは「石巻専修大学附属高校の設置の可能性」や「廃校」を選択させるための方便である。</p>	<p>高校再編問題については、地域の県立高校・市立高校を合わせての統廃合による新設や市立高校を私立大学附属高校として移管といった方法で他の県では実施されているところがあります。</p> <p>本市では、平成15年6月に策定されました基本方針を見直し再検討することとするものであり、時代の変化に対応した高校教育を推進するため、平成20年度から市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し多面的(存続も含めたあらゆる方向性を検討する)に検討することとしております。</p> <p>以上のとおりですが、当該箇所の一部においては、ご指摘のような誤解を招く記述となっておりますことから、右記のとおり一部を修正します。</p>	<p>【これからの取り組み】</p> <p>新たな市立高校将来構想の策定</p> <p><u>教育委員会の取り組み</u></p> <p>市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取り組みの基本方針」の見直しを県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校など多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。</p> <p>【上記修正に伴う他の部分の修正】</p> <p>18頁 5行目</p> <p>また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>19頁 17行目</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直</p>	<p>【これからの取り組み】</p> <p>新たな市立高校将来構想の策定</p> <p><u>教育委員会の取り組み</u></p> <p>市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取り組みの基本方針」を生徒数の推移を考慮して再度精査し、県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校なども多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。</p> <p>また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精</p>

					し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。	査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。
2		<p>「石巻専修大学附属高校の設置の可能性」について</p> <p>この内容は私立高校への「設置」ではなく委譲または譲渡なのだろう。市民に誤解を与えるような表現は避けるべきである。以前青木市長の時、石巻市立女子高校を石巻専修大学の附属高校にしようとし、同窓会や市民から猛反発を受けて、断念した問題である。時代が変わったのもう良いだろうという意見もあるかも知れないが、新たに市立高二校を残せという四万筆以上の署名が市に提出されてからまだ数年しか経っていない。このことから分かるのは市民の多くが市立高校の存続を願っていて、私立高への委譲を望んではいないということである。</p>	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ
3		<p>「廃校」について</p> <p>『廃校』は財政面から考えた単なる教育放棄である。廃校だけでは将来構想も何もなく、これは問題外である。残してこそ将来構想といえる。</p>	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ
4		<p>全体としての意見</p> <p>、 、 を検討することについて、いずれも上記の理由で賛成できない。検討内容の選択肢はどうしてこの3つだけなのか。現市立高校の存続、もしくは存続の代わりに出した一校新設案は何処へ消えたのか。それとも市立高校はもう一校も要らないということなのか。それならそれを明確にして、市民の意見を問うべきである。別な選択肢だけを並べて検討させ、結果的にそうなるようにし向けるのは、教育委員会として適当な方法とは言えないと思う。</p> <p>市立高校の存続は、先に提出された署名数から考えても市民の願いである。そして市が検討している市立高校の将来構想は、市立高校を存続させるということが前提ではなかったのか。</p>	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ

		<p>私達は今まで地区の子ども達を市立高校で育ててきたという市の実績を大きく評価している。今は子供の数が減っているとは言え、石巻市立女子高校、石巻市立女子商業高校合わせて9クラスある。学んでいる子ども達は多いし、卒業生の多くは地区で活躍している。石巻市のためにも、これから子ども達のためにも、市立高校を残すことが最善と思う。市立高校を発展させ残すことにより、地区の子ども達の将来を保障して欲しい。</p> <p>教育は努力して創り出すもの、金が掛かる等と言わないで是非市立高校を残す方向で検討して欲しい。市の高校将来構想は市立高校をどうすんなりなくすと言うことではなく、どういう市立高校を創るかということではないのか。そういう方向でこれからの教育ビジョン検討し、将来構想検討委員会や市民に提案して欲しい。</p>			
--	--	--	--	--	--

5

	頁	項 目	ご意見・ご提案の内容(要旨)	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修正前	修正後
1	13	特別支援教育の充実 (総論 施策目標2 基本施策5)	<p>特別支援教育では、小・中学校等に準ずる教育を行うとともに、併せて、児童生徒が心身の障害に基づく種々の困難を克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的とされています。</p> <p>「基本施策5『一人一人を大切にした特別支援教育の充実』を図ります。」の箇所に次のように加えてみました。(太字部分)</p> <p>「……特に、近年、LD(学習障害)(2)やADHD(注意欠陥多動性障害)(3)、アスペルガー症候群(高機能自閉症)(4)等の発達障害(5)のある児童生徒に対して、その障害の状況や発達段階、特性等に応じて適切な教育環境を整え、一人一人の児童生徒の全人的発達を図り、その可能性を最大限に伸ばし、可能な限り積極的に社会に参加する人間を育てるため、特別な配慮のもとに適切な教育を行う必要があります。」</p>	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>施策の具体化に当たっては、ご指摘の点を踏まえて、児童生徒の全人的な発達を図るよう教育環境を整えて参りたいと思います。</p>	修正なし	

	頁	項 目	ご意見・ご提案の内容（要旨）	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修 正 前	修 正 後
1	18 19	市立高等学校の将来像の具現化 (総論 施策目標 4 基本施策 2)	<p>「石巻市立高等学校の再編に向けた取組みの基本方針」を見直さなければならない理由として次のように記述されている。</p> <p>「しかし、少子化や地方自治体の財政難が時代のすう勢となっている現状においては、...(中略)...あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。」とある。</p> <p>1 少子化、2 財政難、3 県立高校の状況、4 男女共学等々の問題は「基本方針」が作成されていた当時から議論されていたことであつたし、合併問題も現実味を帯びてきていたにもかかわらずそれにも一切触れられることもなかった。また、同窓生を中心とした「市立高校の存続運動」を感情論とだけしか認識できていない。</p> <p>さらにこの文章は「教育ビジョンの策定に関する提言」を丸写ししたものである。いったい、「基本方針」を策定した平成15年6月以降、市教育委員会は何を行ってきたのだろうか？</p> <p>いま問わなければならないことは、実現、実行不可能なことが十分に認識できていたはずの「基本方針」をなぜ拙速に決めて、いたずらに子どもたちや教師を惑わせてきたのか、さらにその反省もなく、教訓も得ないまま市立高校の将来構想を「提言」そのままに丸写しした(案)を出すしかない教育委員会の責任はどうするのか、であると考え。引用した部分の文章は全面的に書き換えて「石巻市教育委員会」としての反省と市民に対してお詫びの文章を掲げることが、石巻市の将来を担う子どもの育成を真摯に考えた「市立高校将来構想」を策定する前提と考える。</p>	<p>「教育は人づくり」であると言われます。高等学校の3年間で、仲間と協同し、目標をもって学び、自ら考え自ら学ぶ力を育成し、地域社会の一員として地域の発展に貢献できる人材の育成を図らねばなりません。そのためには、人づくりの土壌となる、よりよい高等学校教育の環境を整えていくことが求められております。</p> <p>これまでも、時代背景の中で地域の発展に貢献できる人づくりに向けた教育環境の整備を行ってきました。今後も、将来を見据えた教育環境の整備を図っていかねばなりません。</p> <p>今後の進むべき方向性を検討するために、市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し多面的に検討することとしております。</p>	修正なし	

2	70 71	<p>新たな市立高等学校の将来構想の策定</p>	<p>2 市立高等学校の将来像の具現化(1) 新たな市立高等学校の将来構想の策定のなかで、【現状と課題】として「基本方針」を見直す理由に、少子化、入学状況、2キャンパス制、男女共学化、県立高校将来構想後期再編、平成22年度からの県内1学区制をあげているが、の県内1学区制を除いては15年当時から十分に想定されていたことであり、平成30年度までに新校舎の建設や、2キャンパス制の実現不可能なこと等、私たち(石巻市立高校の将来を考える会)も貴教育委員会に質問状などで問い質していた事である。</p> <p>さらに、【これからの取り組み】の中での文章は、「市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取り組みの基本方針」の見直しを県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校など多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。」と結論付けている。</p> <p>この文章のどこにビジョン、「市立高校の将来」があるのだろうか。どこをどう読めばこの文章と「魅力ある市立高等学校づくり」の内容と整合性が取れるのか私には理解できない。「基本方針」を見直して「市立高校の将来構想」を策定するのに書かれていることは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県立高校への移管、(15年に出した基本方針の中で県立移管が不可能な理由を数ページにわたって記述しているのはなに?) 2. 専修大付属高校設置の期待、(私立大学である専修大学が付属高校を設置することと石巻市立高校とは別の問題であるはず) 3. 廃校 (行政の高等教育の放棄、市立高校はもういらない?) <p>である。</p> <p>市立高校の将来構想を策定するためにこれらの文言は必要ない、削除すべきと考える。</p> <p>私が構想するビジョン、「市立高校の将来構想」は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女共学が可能な新しい校舎を新設する。 2. 市独自に30人学級を実現する。 3. 子どもたちの個性を尊重し、学力の基本を身につけることを保証し、学ぶことが自身の成長と結び付けられる学校 	<p>時代の流れ、社会の変化に対応しながら次代を担う子ども達を育てていくための教育環境の整備を進めていかなければなりません。また、子ども達にとって、今、一番大切なこと、一番必要なことは何か、最適な石巻地域の高校教育の進むべき方向性を見いだしていかなければなりません。</p> <p>石巻地域には全日制の市立高校2校、県立高校9校と定時制2校の13の高校が設置されておりますが、今後少子化による中学校卒業生徒者数の激減が予想され、全ての高校の存続は厳しいものがあると考えられます。時は流れており、市立高校の将来像について再度見直し、新たに県との協議の中で、石巻地域の高校再編を進めていくことの必要性が出てくることも考えられます。</p> <p>これから先の石巻地域の高校教育の在り方、進むべき方向性を、市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し多面的に検討することとしております。</p> <p>以上のとおりですが、当該箇所の一部においては、ご指摘のような誤解を招く記述となっておりますことから、右記のとおり一部を修正します。</p>	<p>【これからの取り組み】</p> <p>新たな市立高校将来構想の策定</p> <p>教育委員会の取り組み</p> <p>市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取り組みの基本方針」の見直しを県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校など多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。</p> <p>【上記修正に伴う他の部分の修正】</p> <p>18頁 5行目</p> <p>また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>19頁 17行目</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を見直し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>	<p>【これからの取り組み】</p> <p>新たな市立高校将来構想の策定</p> <p>教育委員会の取り組み</p> <p>市民各界、各層の参加のもとで、「石巻市立高等学校再編に向けた取り組みの基本方針」を生徒数の推移を考慮して再度精査し、県立高校への移管、石巻専修大学附属高校の設置の可能性や廃校なども多面的に検討し、あらためて市立高校の将来構想として策定します。</p> <p>また、少子化による生徒の激減等に伴い、平成15年6月に策定した「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p> <p>そこで、早急に、市民各界、各層の参加のもと、「石巻市立高等学校の再編に向けた取り組みの基本方針」を再度精査し、あらためて市立高等学校の将来構想を策定することにより、市立高等学校の将来像を具現化します。</p>
---	----------	--------------------------	--	---	---	--

		<p>にする。</p> <p>4．石巻の最大の地場産業である、水産物、農産物、畜産物の「食材」を基本にすえた人材を育成する高校にする。</p> <p>5．市民と学校が常に交流できるような仕組みをつくる。</p> <p>6．教師の資質を高める保障をする。</p> <p>ビジョンとは、言うまでもなく「将来への展望」である、このような市立高校をつくるためには市民の力を結集して困難な壁を乗り越えていくことが必要であろう。私もそのための苦労は厭わないつもりである。</p> <p>「提言」のときに行われた市民との懇談の場をもっと多く作り広く市民からの意見を募り、拙速に決めることなく十二分に議論をつくすことを願います。</p>			
--	--	--	--	--	--

	頁	項目	ご意見・ご提案の内容(要旨)	ご意見等に関する石巻市教育委員会の考え方	石巻市教育ビジョンへの反映	
					修正前	修正後
1	20 21	市民に開かれた教育委員会、分かりやすい教育行政の実現 【積極的な教育情報の公開と教育委員会活動の活性化】	「市民への情報公開」とありますが、教育委員会と学校との接点は、これからも「校長会」だけなのでしょうか。昨年の10月に3回ほどあった「学校教育に関する市民懇談会」のような機会がもっとあればいいと思います。校長会でも、各校の校長の意見をしっかり聞くようにしていただきたいし、私たちにもより詳細な説明がほしいです。学校への情報の公開(説明責任)をしっかりと行うシステムの構築をお願いしたいと思います。	教育委員会会議の開催方法の見直しや会議録の公開、「教育委員と学校、保護者、児童生徒との意見交換会」や「市民懇談会」などの開催、また、「市民、学校、教育委員会間の教育情報の共有化」など、今後、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし	
2	21 22	【適正な教育行政の運営の確保】	現在合併に伴って、市の職員は旧町・旧市に関係なく、各地の支所に配置されています。その結果、教育委員会の各事務所の職員が地域のことが分からない、という事態になっています。このような事態をなくすためにも、地域に詳しい職員を、各事務所に配置する努力が必要かと思えます。“地域の歴史・文化を大切にすること”を重視していただきたいと思えます。	ご意見のとおり、各事務所の職員がその地域の歴史・文化を理解し大切にすることは、大変重要であると考えております。人事異動等により職員を各事務所に配置する際には、その地域の一員となることの意義を指導していく中で対応して参りたいと考えております。	修正なし	
3	24 25	地域社会との関わりを大切にしたい学校づくり 【学校と地域社会・家庭との連携の強化】	学校教育を、家庭、地域住民、地域団体などが手を携えて行っていく、というのは分かります。それをどう具体的に進めていくかが大きな問題です。 私は、A中学校のPTA役員をしております。中学校はとても多忙で(小学校も多忙ですが)、学校だけでは(先生方だけでは)教育活動を行っていけない状況が生まれてきています。ただ、学校に保護者がどう協力するのかは、役員などを経験した人でないと分からないのではないのでしょうか。 では、どんな協力が必要なのかを述べます。学校にできるだけ多く顔を出す協力。これによって学校の様子が分かります。先生方の忙しさ、生徒の服装、学校の雰囲気など。それから保護者が学校に頻りに顔を出すと、生徒とも馴染みになり、学校が開かれた状態になり、様々な効果が出てきます。 学年PTAや学級の懇談会に顔を出す協力。これは、学年や学級の先生方の考えや、服装などのきまりごとの確認ができます。大きな意味で、保護者の共通理解ができます。そうすれば、服装などが大きく乱れることはありません。ただ、この最低限の保護者の協力でさえもできていないのが現状	各学校では、年度・学期始め・終わりの授業参観日の他に、「自由参観日」として、1週間程度を開放し、保護者や地域の人々に学校に来て子どもの様子を見ていただく機会を設けています。人の目があることは、教師にとっても子どもにとっても良い緊張感となると共に、保護者や地域のみなさんに、教師のがんばりを見ていただく貴重な機会となると考えております。さらに、推進していきたいと考えております。 参加したくなるようなイベントの企画が必要であると思います。子どもたちが招待状を作成し、自分の親や地域に配布するなどの工夫をしている学校も増えてきております。保護者や地域の人々も忙しくても「小(中)のこの行事はすごい、みんなで見に行きたい」と言わせるような行事を持つことが大切であると思います。 授業参観日の学年・学級懇談会も魅力のあるもの、保護者にとって切実感のある会にする努力をしていく必要があると考えております。	修正なし	

			です。学年の懇談会には、半数の保護者も参加しないことがあります。学級懇談会では、4～5人の場合もあります。		
4	25	【地域資源の学習への活用】	こんなに保護者の参加が少ないと言っておいて逆説的になりますが、私は、保護者への授業参加を進めてはどうか、と思います。総合的な学習の時間の講師として、放課後の学習の補助として、などが考えられます。それによって教員の負担は減り、保護者の学校への理解が進みます。(保護者は、一部でもかまいません。少しずつ広げていきます。)不景気で仕事を休んで来られない保護者も多いと思いますが、1年に1～2回の参加はできるのではないかと思います。	ご指摘のとおりと考えます。学校は、積極的にボランティアとして協力を保護者に求めるべきだと考えます。その際、ボランティアの方々の保険については、各学校のPTAで予算化するなどの措置が必要になると思います。今後、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし
5	25	【学校評議員制度の拡充】	学校評議員制は、ほとんどが形式的になっているのではないのでしょうか。評議員から活発に建設的な意見が出ているのでしょうか。一方、評議員を置いていない学校は、必要感がないからそうしているのではないのでしょうか。学校評議員制をいかに機能させるかが大きな課題です。私は、学校評議員制よりも、学年PTAや本部PTAの役割を活性化していく方が、現実的な施策になると思っています。	学校評価の着実な定着と充実を図るために、学校評議員の役割は大きいものがあります。今後は、学校関係者評価(外部評価)を行うにあたり、学校評議員と学校との連携をより促進し、学校の応援団としての機能を強化していくことが重要になっていくと思います。	修正なし
6	28	創意工夫のある学校運営の推進 【校長の権限の拡大に向けた調査・研究】	「学校の自主性・自立性の確立」、「校長の権限拡大」とありますが、ほんとうにそのように進んでいくのでしょうか。例えば、現在市教委の方で行っている「週案のチェック」は市教委で行うべきものなのでしょうか。教科の進捗をチェックし「教え漏れ」がないようにした、との教育長さんのお考えは、理解できます。しかし、市教委で行うべきものなのか疑問です。私は、「学校の自立性、校長の権限の拡大」から、学校(校長)が責任をもって行うべきもの、と考えます。担任の教科やその他での実践は、校内にいる校長や教頭、教務主任などがいつも見えています。ですから、担任の実践の評価もできますし、進捗の確認もできます。もし、チェック漏れがあった場合のみ、指導主事訪問で市教委が指導することにしていただきたいです。	教育課程は各学校の教育目標に基づいて編成されるものですから、その実施と管理については、校長の校務掌理権にあたるものです。ただし、教育委員会も学校の管理機関として、教育課程に関する事務を管理し、執行する権限を有しています(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第5号)。1市6町の合併後、各学校の訪問や週案の調査をとおして、旧市・町による管理方法の違いや教育課程の実施状況の差が見られました。学校ごとの管理職による評価や管理を前提にしつつも、全市的な傾向を把握する必要があると考えています。教育委員会としては、教員個々の内容をチェックするものではなく、全体的な配当時間や時数等に関して今後も調査が必要と考えています。	修正なし
7	29	【(仮称)総合教育センターの設置】	教員が児童生徒のことでいろいろな問題を相談するところも、多くはありません。移動教育相談では、保護者や児童生徒と一緒になければだめ(この認識が間違っていたらすみません。)とか、私が前に相談した市の機関では、「自分の学校の教頭先生に聞きなさい。」と相談に乗ってもらえないことがありました。「(仮称)総合教育センター」では、教員が	(仮称)総合教育センターにつきましては、今後その形態や機能等を十分に調査・研究した上で教育ビジョン実施計画に位置付けて設置をめざすこととなります。ご意見の教員に対する相談・支援機能もセンターの大切な要素になるものと考えておりますので、今後、検討して参ります。	修正なし

			気軽に相談できるようにしていただきたいです。		
8	31	少人数指導により、基礎学力の 確実な定着と学ぶ意欲を育む授 業づくり 【成果を重視した指導の徹底】	私は、全国学力状況調査からの離脱を進言いたします。参加の権限は、市教委にあると認識しています。遊楽館で行われた「学力向上についてのシンポジウム」で教育委員長の松田孝子氏が話されていた通り、「テスト一点張り教育からの脱却」を実現すべく、学力状況調査参加から離脱し、テストとは距離をおき、児童生徒に本当の力をつける石巻市独自の教育を実践していくべきではないでしょうか。（愛知県犬山市の例もあります。）	学校教育の目標は「生きる力」を育成することです。さらに言うと「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」をバランスよく育成することです。石巻市で取り組んでいる「学力向上策」は点数を上げることに精力を傾けるのではなく、一番大切なのは教師の授業力の向上に視点を当てております。全国学力・学習状況調査の結果を分析することは、教師が自分の授業を反省し、課題を明確化し、改善した上で大変重要なデータでありますので、今後も、石巻市では、全国学力学習状況調査を実施する予定です。	修正なし
9	31 32	【学級編成の弾力化の拡大と教 員の配置の拡充】	少人数学級については、全クラスが30人学級が望ましいとは思いますが、財政的なことがネックになっていますので、さらに推進する方向でお願いいたします。特に総合的な学習の時間では、一人一人の課題に対応することが求められます。とかく国語、算数だけに目が行きがちですが、指導者の人手が一番必要なのは、総合的な学習の時間であることを打ち出していきたいと思えます。	現在、小・中学校1クラスの人数の最大限が40人。県の学級弾力化事業で小学校1、2年生、中学校1年生（平成20年度より）で最大限が35人となっております。その他の学年については、教科の少人数指導で対応しています。 「研究」の内容としては、次のとおりであり、今後、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。 1学級の編成人数がどのくらいが適当なものか。学級集団、授業集団としての適正人数はどれくらいなのか、について総合的に研究する必要があります。30人学級ということは、1学年31人のような最低人数の場合、2学級となって1学級が15人と16人となります。果たして、この人数が学級としての適正規模かどうか、研究の余地があります。 の結果、適正規模の学級を考えた上で、その学級に配置する教員をどのような人材で確保するのか、その際に市独自の予算のもと少人数学級編成を行った場合、財政的にどの程度の新たな負担が生じるのかといった試算を行う必要があります。 総合的な学習の時間での指導者の人手が一番必要であるとのことですが、講師として地域の人材を活用することもできますので、ある程度解決できるものと考えております。	修正なし
10	33	【学習意欲の向上】	「確かな学力」をどう捉えるのかが重要と考えます。それは“テストの点数”だけではなく“授業中で行われる学び”も当然入ってくるのではないのでしょうか。「基礎学力の確実な定着」とありますが、そればかりが強調されると「ドリル	まず、「確かな学力」をどう捉えるかですが、ご指摘のとおり、学力は“テストの点数”だけではありません。学力は、単なる知識の量のみ偏ることなく、主体的に思考・判断・問題解決をさせていく中で生きて働く知識を身に付けさせ	修正なし

			<p>学習で徹底的に覚えさせる」ことが授業(あるいは教育)だと誤解されることはないでしょうか。後の方に“探究型の学習の推進”についての記述がありますが、それを含めて「質の高い授業の創造」としてはどうでしょうか。もちろん、「質が高い」とはどういうことかも具体的に示す必要があります。</p>	<p>ることが求められます。</p> <p>また、ご意見の中にあります「基礎学力の確実な定着」については、単に知識を一方向的に教え込むのではなく、自ら学び自ら考える力につなげることです。そのために、基礎・基本の学びを繰り返し指導し、学習の習慣化を図ることにつながるという点について周知しなければならないと考えております。</p> <p>“探究型の学習の推進”については、「探究」のみが一人歩きをするのではなく、基礎的・基本的な知識・技能の「習得」と「活用」を踏まえて「探究」といったバランスを大切にして「質の高い授業の創造」を目指していきたいと考えております。</p>	
11	33	【総合的な学習の時間の改善】	<p>総合的な学習の時間の講師に関する謝礼は、1単位時間あたり850円になっています。私達の学校では、遠方から講師の先生をお願いしています。遠方からの講師の先生に、謝礼として850円を渡せるでしょうか。一般常識とかなりかけ離れていると言わざるをえません。1校への予算は、今のままでかまいません。例えば、1校30,000円の予算を、850円ずつではなく、1単位時間あたり3,000円～5,000円で使えるようにしてほしいのです。</p>	<p>地域人材の活用を第一に考えて欲しいと思います。講師謝礼は市の基準があり、学校毎に違うのはまた、問題であると思います。講師にとっての最大の報酬は、子どもの笑顔と輝く目、そして、講師に対する感謝の心であり、先生方のやる気ではないでしょうか。</p>	修正なし
12	41 42	<p>人との関わりを大切にした人権教育・道徳教育と児童生徒の心のケアの充実</p> <p>【いじめ、不登校に対する適切な対応】</p>	<p>不登校やその他の児童・生徒の問題については、気軽に相談できる体制を整えていただきたいです。『けやき教室』は“『けやき教室』にしっかりと通える不登校の児童・生徒」しか登録できません。元来、不登校の児童生徒のための『けやき教室』が、「けやき教室では、不登校が許されない。」とは、おかしな話ではないでしょうか。不登校の子どもを持つ保護者は、『けやき教室』に入れないし、相談できないこともあるのです。</p>	<p>けやき教室では、通所の可否を問わず、常に相談を受入れています。平成19年度では、仮通所者を含めると27名の児童生徒が通い、そのうち再登校者が3名、部分登校者が4名おり、相談件数も82件ありました。けやき教室では、学校に行きたくても行けない児童生徒の学習支援や体験活動を主に運営しています。通所については、常に学校・家庭と連携を図り、児童生徒個々の状況に応じた支援を行っています。また、不登校の相談は、教育事務所や市教委でも随時受け付けています。</p>	修正なし
13	44 45	<p>児童生徒の基礎体力の向上と健康管理・保健衛生の指導の充実</p> <p>【健康管理・保健衛生の指導の充実】</p>	<p>体力の増進や健康管理については、養護教諭の役割が大きいと思います。どこの学校でもそうだと思いますが、当校では、養護教諭が各学年に入り、性や健康に関する授業をTTで行っています。養護教諭がその専門性を生かし、学校全体に健康や体力の増進に関する意識を浸透させることが重要と考えます。</p>	<p>ご指摘のとおりであると思います。養護教諭の専門性を生かした指導は、児童生徒の意識を高めるためにたいへん有効であると思います。今後も充実した取り組みを行うよう働きかけていきたいと考えております。</p>	修正なし

14	44 45	【健康管理・保健衛生の指導の 充実】	旧市内の学校に給食で使用する“箸”を配備してほしい。給食の箸は子どもが自分で持ってくることになっているので、忘れてしまった時には昨日の箸をサッと水で洗ったり、先生の机の中に容器に入れてある割り箸を、先生から注意を受けながらもらったりしています。衛生的な面を考えると“箸”を配備した方がよいのではないのでしょうか。「食育」より先に、「衛生面」を考えていただきたいと思います。	「箸」の配備については、「箸と箸カゴ」の保管方法や洗浄室の人員配置と洗浄作業に係る機器類の設備や保管スペース等を確保する必要があり、各給食センターの実情に応じて対応しているところであります。 今後は、衛生面等を考慮し、調査検討して参りたいと考えております。併せて、児童生徒には、忘れ物防止の指導の徹底及び家庭には衛生面等での協力について、働きかけていきたいと考えております。	修正なし
15	46 47	学校における食育の推進 【食育の推進】	「食育」については、とても重要なことであると認識しています。ただ、学校給食だけの指導では限界があります。栄養職員の数も足りず、学級担任との「食」に関する授業は、ごく一部の学校でしか行われていません。社会教育等で「食育」を推進するとともに、貧困家庭に対する国レベルでの救済など、根本的な解決が図られなければならないと思います。	「食育」は、学校だけで行うものではありません。また、学校での食育＝学校給食でもありません。食育の中の一部として学校給食があるのであり、食育は栄養教諭や栄養職員でなければならないというものでもないのです。各学校には平成19年4月に文部科学省から「食に関する指導の手引」が配布されており、それぞれの学校や地域の状況に応じて食育全体計画を作成することになっております。栄養教諭も増員されることとなり、学校での食育は、今後さらに充実していくものと思います。社会全体での「食育」の中で、学校ができる「食に関する指導」を行うことが必要であると思います。	修正なし
16	49	一人一人を大切にしたい特別支援 教育の充実 【学習支援体制の強化】	石巻市は、特別教育支援員を10名を配置したと聞きました。石巻市の教育にける意気込みを知り、とても嬉しく思いました。ただ、それでもたったの10名。まだまだ足りないと思います。各校には「特別支援コーディネーター」なる役職が用意されていますが、コーディネートする支援員がおりませんし、人がいないところでのコーディネートはすぐ行き詰ります。とくに大規模校には、ぜひ特別教育支援員をお願いしたいと思います。	ご指摘のとおりだと思います。文部科学省では「各学校1名の支援員配置」を示しており、市教育委員会としましても目指すところは同じです。ただ、そのための財源が大変に逼迫していることも事実であり、少しずつ増員を図っていきたいと考えております。今後、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし
17	56	児童生徒が安心して過ごせる環 境づくり 【学校施設の耐震化の促進】	校舎の耐震化は、早急な整備が必要です。命に係わることですので、ぜひ進めていただきたいです。	学校施設の耐震化については、「石巻市立学校施設耐震化整備計画」を基に、着実かつ計画的な推進を図っていきます。また、耐震化整備計画の基本的な考え方としては、児童生徒が多く時間を過ごす校舎を優先し、平成20年度から10年以内の事業着手を目標に取り組みます。特に、I s 値(構造耐震指標値)が0.3未満の校舎は、最優先に5年以内の事業着手を目標とします。	修正なし

18	57	【学校・家庭・地域の連携の強化】	地域の防犯対策ですが、学校の職員は非常に多忙ですので、ぜひ市の方で対処していただきたいと思います。その対策の一つとして、スクールガードリーダーについてですが、児童生徒が下校する際に、毎日巡回できるようにしていただきたいですし、どこをどう回っているかを随時学校に知らせたいです。スクールガードリーダーが“抑止”のものではなく、実際に“監視”として機能するように予算措置をお願いいたします。	スクールガード・リーダーは、地域の安全確保についての指導・助言や、スクールガード(安全ボランティア)の指導という業務を行っています。スクールガード・リーダーが、直接巡回するのではなく学校・地域の安全ボランティアの育成のために、訪問指導を行います。ご指摘の内容は、スクールガード・リーダーの指導の下に各学校においてスクールガードを組織し、学校を中核として地域の協力を得ることで充実していくことと思われます。スクールガード・リーダーの働きかけにより、学校安全ボランティアを組織する学校は増えています。 今後、より良いスクールガード・リーダーのあり方を含めて、地域ぐるみの学校安全体制の構築について、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし
19	62	教員が児童生徒に向き合える十分な時間の確保 【人的配置の充実】	今、学校では、ごく一部の人間が問題を起すたびに、瑣末な事務作業が増えています。また中教審の答申で、教科時数の1割増で高学年の6校時限が多くなり、放課後の時間がなくなっています。これでは、授業で使用するものの準備や教材研究ができず、多忙化に拍車がかかります。人員を増やし、事務作業を分担することが必要だと思えます。	中教審答申に、「教師が子どもたちと向き合う時間の確保などの教育条件の整備等」が述べてありますが、ご指摘のとおり、今後、学校の業務内容で精選すべき点は何か、「教師の事務負担の軽減等」を含めた業務内容のスリム化を検討していかなければならないと考えており、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし
20	64	豊かな人間性と高い実践的指導力を持つ教員の育成 【教職員研修の充実】	私は、教員の研修は教育現場でこそ行われるものと確信しております。また、研修は学校での研修と学校以外での研修に分かれます。学校での研修は、もちろん授業研修が中心になりますが、これは各教員が自主的かつ主体的に行わなければなりません。厳しく、子どもを伸ばすという意味でやりがいのある研修が望まれます。 学校以外の研修としては、国や県、市が行う研修の他に、他県の学校への視察や公開研究会への参加、それから民間教育団体やサークルなどでの研修も教師の力量を伸ばします。何につけても、旅費等での予算措置が必要になります。よろしくをお願いいたします。	ご指摘のとおりです。教員には、自主研修だけでなく、学校の研究課題を踏まえ、研修会に計画的かつ積極的に参加できるよう旅費の予算執行をしていかなければならないと考えており、今後、必要な予算の確保に努めるとともに、教職員研修の充実策について、教育ビジョン実施計画への掲載を検討して参ります。	修正なし

21	65	【教育実践の普及】	<p>当地区では、来年度から校長会が主体となって、中学校区での教員の交流を始める予定です。ただ、今のところ授業の参観と情報交換だけの予定ですが、これを発展させ、教材研究も小中合同で行うことなどが出来れば、小中学校間を行き来する教員が必要になります。(そうしないと長続きしません)もしそうなれば、加配も考えていただきたいと思ひます。</p>	<p>教育ビジョンでも、このような中学校区を単位とした教員の相互交流や授業参観への取組が述べられております。学校が自主的にこのような実践に取り組んでいこうとする姿勢は大変すばらしいと思ひます。小中合同での教材研究などについては、河南西中学校学区で平成17～19年度に行われた「学力向上拠点形成事業」等の実践の成果を活用していきたいと思ひております。</p> <p>なお、教員の加配については、市独自の予算で行うことになるので、現状では困難であると思ひておりますが、今後、(仮称)総合教育センターの形態や機能等を調査・研究する中で、教育実践の普及についても検討して参りたいと思ひております。</p>	修正なし
22	66 67	小・中学校の適正規模と適正配置の実現(P66・67)	<p>最近、県教委の方でも適正規模、適正配置ということで学校の統廃合の問題が打ち出されていますが、これは原則30人学級を前提とすることだと思ひます。そうでなければ、“少人数指導”との整合性は図られません。</p> <p>また、統廃合は遠距離通学を意味します。特に小学校の遠距離通学は、「自分たちの地域」の意識を薄くするのではないのでしょうか。例えば、総合的な学習の時間は、自分達の学区が学びの場になります。遠くから来た児童にとっては、「自分たちの学びの場」は統合された学校の学区ではありません。本当の意味で総合的な学習の時間ができなくなります。</p> <p>また、遠距離通学は当然スクールバスを必要とします。ただ、スクールバスは、低学年、中学年、高学年の下校時間の時差に対応することができるのでしょうか。現在、スクールバスを利用している学校の現状を聞きますと、バスの時刻に教育活動が左右される不便さになかなか対応できないと言っています。将来、統廃合は避けて通れないかもしれませんが、子ども第一、教育第一に考えて対応していただきたいと思ひます。</p>	<p>宮城県教育委員会では、標準的な学校規模は、小学校12学級以上、中学校9学級以上が望ましいとする学級による基準を設けておりますが、ご指摘の原則30人学級は前提とされていません。</p> <p>したがいまして、「学校の統廃合は、原則30人学級により行うべきである」とのご意見として参考にさせていただきます。また、学区が広がることにより、活動範囲も広がり、子ども達が多様な経験をすることが多くなると考えることもできます。</p> <p>いずれにしても、学校統廃合には、メリットとデメリットが生じます。メリットは最大限に生かしつつ、デメリットを補う施策が必要になると考えており、ご意見のとおり子ども第一、教育第一を基本に、スクールバスのあり方なども含めて、平成20年度において地域住民や保護者の皆様と多くの議論を経て「小・中学校の適正規模と適正配置に関する基本方針、基本計画」を取りまとめたいと思ひております。</p>	修正なし
23	70 71	新たな市立高等学校の将来構想の策定(P70・71)	<p>市立高等学校(市立女子高等学校と市立女子商業高等学校)を統合し、将来的には施設を新しくする計画、と理解しています。ただ、学校の数少なくすることに関しては、市内の全中学生が市内の高校に入学できることを前提に考えていただきたいと思ひます。今ある高校の良さを生かした上での統合をお考えください。</p>	<p>管内中学校卒業生徒数の減少等による市立高等学校への入学者数の減少などの課題があります。</p> <p>未来の担い手である子ども達を育てていくために、石巻地域における高校教育の在り方全般の中で、進むべき方向性を、市民各界・各層の参加の下で新たな検討組織を設置し多面的に検討することとしております。</p>	修正なし